

国語科学習指導案

指導者 岡本 恵里香

日時 令和2年7月17日(金) 第2校時(10:05～10:55)
年組 中学校第3学年2組 計39名(男子20名,女子19名)
場所 中学校3-2教室
教材 「俳句の可能性」「俳句を味わう」(光村図書『国語3』,正進社『新・国語の便覧』)
単元 「俳句の授業をしよう」

単元について

本教材の「俳句の可能性」は俳人である宇多喜代子の解説文である。この文章を読むことによって、俳句の形式や季語、切れ字等の決まりや各俳句の概要をつかむことが可能である。二つ目の教材である、「俳句を味わう」には9句の俳句が挙げられており、多くの有名な俳句に触れることができる。読解力と想像力があって鑑賞が可能になり、生徒自身の感受性と表現力・語彙力があって俳句の創作が可能になると考える。この「想像力」や「感受性」といった数値化が難しい心の部分こそ、学校で耕す必要があると感じている。そこで、関心を高めるため教科書に載っていない漱石の俳句を授業者が紹介する。人間の知性や理性ではない、情動から俳句が生まれることを感じて欲しい。俳句の鑑賞の基となる情報を教師が教えるのではなく、生徒自身が便覧や図書館の資料から調べて発表するという主体性が不可欠な活動を取り入れた。発表をしなければならぬ場を設定することにより責任感が生まれ、担当する俳句について理解しようと資料から様々なことを感じ、解釈しようと想像力が働くと考え。また発表を聞く際にも、初発の感想や疑問点や解釈に迷ったこと等を同級生が話すことによって共感性を入口にした想像力が高まるのではないかと考える。

生徒はこれまでに、第2学年で短歌の学習をし、東雲中学校独自の取り組みである詩創作活動や百人一首大会を行っている。これらの学習によって、韻文の表現技法や区切れ等の知識の習得だけでなく、言葉で表現されない「間」からも情景を描き作者の心情を考える経験をしている。その一方、生徒にとって俳句は、知識事項を暗記するもの、想像ができないから鑑賞も覚えるもの、創作俳句を提出できたら良いものと捉えられている側面もある。また、何かを調べ新たな知識を得る際に、安易にインターネット検索で知識を得る傾向もある。2学年で学んだ池上彰「メディアと上手に付き合うために」にあるような、特徴に応じてメディアを使い分ける、玉石混合のネット情報の確かさを考え分類するといったリテラシーが、実生活で実行できているか定かではない。また、図書館を活用した授業が少ない実態があるため、俳句に関する本や歳時記がどこにあるかといったNDC配置を知ること、正しい引用の仕方等、図書資料を活用する力も高めたい。

指導にあたって、今回は「俳句の授業をしよう」と題して発表を行う単元を設定した。学習の流れを次のように設定した。第1時に自分の発表したい俳句を決め、1句につき2人の発表担当者を決める。この時に、発表のポイントとなる聞き取りメモを配布し、どの項目について調べて発表するかを明確にさせる。第2時の俳句の分析には主に国語便覧を使うが、発表準備に1時間を充てて図書室での資料検索の時間を設定した。発表前には、板書に当たるものは必ず教員に見せて、誤った情報がないことを確認させる。第3・4時の発表の際、話し手の資料提示方法としては、板書・スライド・用紙の提示・用紙の配布等から生徒が選んで表現できるようにする。また、聞き取りメモにある項目に対する発表がなかった場合も教師は指摘せず、聞き手に質疑応答の際に発言させるようにしたい。これらの学習活動を通して、便

覧や図書館資料を使って調べる力と読解力，発表ツールを選んで効果的に伝える力，他者の意見に傾聴し情報取得のために積極的に聞く力，以上3点を高めていきたい。

なお，生徒が先生役になって発表する活動を次教材「『批評』の言葉をためる」でも設定している。生徒が「選ぶ」という行為をする際に主体性が生まれると考え，俳句という韻文が不得手な生徒のために散文からも発表材料を選べるようにしたかった。そのため，生徒が発表する学習活動は韻文と散文の2教材にわたって展開する。「『批評』の言葉をためる」は小見出しが四つあり4ペアが担当する。俳句は16ペアが担当できるように教科書掲載の9句の他に授業者が7句追加し，全部で16句を設定した。

指導目標

1. 俳句の知識事項(切れ字・区切れ・季語・表現技法など)を確認し，詠歌の対象や状況，情景，作者の心情を把握できる。〈読むこと・「知識・技能」〉
2. 俳句の分析のために適切なメディアを選んで調べ，発表ツールを工夫して知識事項と鑑賞を他者に分かり易く伝えることができる。〈話すこと・「思考・判断・表現」〉
3. 傾聴しながら発表を正しく聞き取って情報を取得し，不明な点や興味を持った点は質問する等積極的に聞くことができる。〈聞くこと・「主体的に学習に取り組む態度」〉

指導計画 全4時間

第1時 俳句の知識事項の確認と，発表担当決め。

第2時 発表準備。(図書館の資料を活用する)

【本時】

第3時 ①～⑧の発表。

第4時 ⑨～⑯の発表，創作俳句。

本時の目標

1. 図書館の使い方を学び，俳句の分析のために適切なメディアを選んで調べることができる。
〈知識・技能〉情報
2. 俳句の知識事項や詠歌の対象や状況，情景，作者の心情を把握し，自分が担当する俳句について聞き手に分かり易く伝えるように書くことができる。
〈思考・表現・判断〉読むこと・書くこと
3. 不明な点は確認・質問をし，誤った情報を提示しないよう発表準備ができる。

学習の展開観点別指導目標 (学習評価の観点) 学習活動と内容	指導上の留意点(◆評価)
<p>1. 導入(5分)</p> <p><input type="checkbox"/> 本時の目標を確認する。</p> <p><input type="checkbox"/> 本時の動き(図書館移動と教室)を把握する。 図書館は前後半8名ずつ10分で交代する。</p> <p>2. 展開(40分) (10分)教室</p> <p><input type="checkbox"/> 便覧を使って俳句の分析をする。</p>	<p>○ 本時の目標を明示する。</p> <p>○ 図書室利用案内(事前配布)に注意させる。</p> <p>○ 貸出をするとほかの人が利用できなくなること に気づかせ，メモやコピーを取る，iPadで写真を 撮るよう促す。</p>

便覧で不足している情報を書き出す。

前半グループ

(①～⑧の俳句担当)

(10分) 図書室

図書資料の収集をする。

(20分) 教室

便覧を使って俳句の分析をする。

発表資料(提示用・読み原稿)を作成する。

3. まとめ(5分)

発表資料作成の注意点の確認。

次時の学習内容を確認する。

後半グループ

(⑨～⑩の俳句担当)

(10分) 教室

便覧を使って俳句の分析をする。

(10分) 図書室

図書資料の収集をする。

(20分)

発表資料(提示用・読み原稿)を作成する。

○司書の先生がレファレンス対応をしてくださる。連携を取って、今後の図書館活用に生かす。

◆〔知識及び技能〕学校図書館を利用して本から情報を得て活用できる。

◆〔思考・判断・表現〕

図書資料や便覧から必要な情報を読み取ることができる。〔読むこと〕

発表事項を分かり易く書くことができる。〔書くこと〕

◆〔学びに向かう力〕

不明な点は確認・質問ができる。

事前チェックを受け、誤った情報を提示しない。

○書いて提示するものは必ず教員のチェックを受けることを伝える。

○次時に発表することを予告する。